
ぬいぐるみとよばないで

風食い

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ぬいぐるみとよばないで

【Nコード】

N3789Q

【作者名】

風食い

【あらすじ】

ゆづくんとぼくのおはなし

ボクがゆうくんちに
初めて来たのは
ゆうくんがまだ、
お母さんの
お腹の中にいたとき。

ゆうくんのおばあちゃんが
ゆうくんにつて
プレゼントしたんだ。

おばあちゃんは、てつきり
女の子が生まれてくる
とおもつてたみたい。

ボクも男の子つて知ったときは
仲良くなれるか心配だった。

でも、ゆうくんはいつも
ボクと一緒にいてくれた。

実は、ゆうくんが初めて

立ったのを見たのは
お父さんでもお母さんでもなくボクなんだ。

そりゃあ

何回も叩かれたり
引っ張ったりされたけどね。

ゆうくんは
大きくなった。

ゆうくんは幼稚園に行くときも
ボクと一緒に連れていった。

でも、次第に

みんなから

男のクセに何だよ

って言われるようになって

ゆうくんはボクを連れていけなくなった。

ボクは寂しかったけど

ゆうくんがお土産に

幼稚園の楽しいお話を聞かせてくれるから
平気だった。

最初のうちは・・・

ゆうくんが幼稚園でできた
お友達と仲良くするようになると
ボクにお話することも
だんだんなくなった。

しょうがないんだ。

ゆうくんは男の子だもん。

でも、でも・・・

ゆうくんはボク存在を
忘れてしまったようだった。

ボクは今でも
ゆうくと遊んだ思い出
忘れてなんかいないよ。

もし、もしも

ボクに声があつたら

ゆうくんにせめて

さよならの挨拶くらいできるのに。

もし、もしも

ボクが人間だつたら

ゆうくんといつまでも

一緒にいられたのに。

お母さんはボクを

ゴミ捨て場に置いた。

ゆうくんが着られなくなった

お洋服やなんかと一緒に。

ゆうくんはボクが今

ここにいないことを知らない。

通学路にある、

このゴミ捨て場の前を

ランドセルをしょった
ゆうくんが通る。

おうちにかえるんだね。

ボクはゆうくんに気づいてもらえなかった。

でも、

すっごく

すっごく

楽しかった。

ゆうくん、

本当にありがとう。

すっごく

すっごく

楽しかったよ。

ゆうくん、

本当にありがとう。

(後書き)

ホムペからの転載
♪

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3789q/>

ぬいぐるみとよばないで

2011年1月28日12時40分発行